

2014 年度公開講座とオープン・クラス（公開授業）アンケート調査報告

仲 嶺 政 光

（富山大学地域連携推進機構生涯学習部門准教授）

本稿では、公開講座、オープン・クラス（公開授業）の受講生・教員に対するアンケートを実施し、その実施状況の確認をおこなうとともに、受講生のニーズの把握につとめる。その上で、今後必要な対応とは何かをさぐっていく。

I 公開講座アンケート

ここでは、2014 年度における富山大学公開講座受講者に対するアンケート集計結果を報告する。

今年度の公開講座受講者は延べ 657 人であり、アンケート回答者は 417 人であった。回収率は 63.5%である。

1. 集計結果

図表 1 回答者の性別

	人数	%
男性	111	26.6
女性	284	68.1
無回答	22	5.3
合計	417	100

図表 2 回答者の年齢

	人数	%
10 代	1	0.2
20 代	15	3.6
30 代	44	10.6
40 代	56	13.4
50 代	100	24.0
60 代	148	35.5
70 代以上	47	11.3
無回答	6	1.4
合計	417	100

図表 3 回答者の職業

	人数	%
フルタイム	134	32.1
パート	62	14.9
無職	184	44.1
学生	6	1.4
その他	28	6.7
無回答	3	0.7
合計	417	100

図表 4 回答者の最終学歴

	人数	%
高校卒	76	18.2
専門学校卒	24	5.8
短大・高専卒	85	20.4
大学卒	204	48.9
大学院卒	21	5.0
その他	1	0.2
無回答	6	1.4
合計	417	100

図表 5 講座の難易度

	人数	%
平易	12	2.9
やや平易	33	7.9
ちょうどよい	265	63.5
やや難解	88	21.1
難解	13	3.1
無回答	6	1.4
合計	417	100

図表6 回答者の居住地

	人数	%
富山市	259	62.1
高岡市	51	12.2
射水市	31	7.4
上市町	13	3.1
無回答	11	2.6
滑川市	11	2.6
立山町	8	1.9
砺波市	6	1.4
魚津市	4	1.0
黒部市	4	1.0
十日町市	4	1.0
氷見市	4	1.0
かほく市	2	0.5
小矢部市	2	0.5
南砺市	2	0.5
入善町	2	0.5
岐阜県	1	0.2
船橋村	1	0.2
朝日町	1	0.2
合計	417	100

図表1～4、6は、回答者の基本属性をみたものである。順に説明する。

図表1は回答者の性別をみたものである。男性111人(26.6%)、女性284人(68.1%)となっており、女性受講者の割合が高い。

図表2は回答者の年齢をみたものである。30代以下が60人(14.4%)、40～50代が156人(37.4%)、60代以上が195人(46.8%)となっており、シニア層の割合が高くなっている。

受講生の性別と年齢の関連をみてみたのが図表7である。50代以下の若年・働き盛り層には男性の割合が低く、60代以上のシニア層で男性の割合が増加する傾向にある。女性の場合、中・高年層の割合が高くなっている。

また、回答者の年齢と講座ジャンルの関連をみてみたのが図表8である。どの年代も語学の割合が高くなっているが、とりわけ50代以下にその傾向が強くなっている。

図表7 性別×世代

	男性	女性	合計
30代以下	8	52	60
	13.30%	86.70%	100.00%
40-50代	24	123	147
	16.30%	83.70%	100.00%
60代以上	76	106	182
	41.80%	58.20%	100.00%
合計	108	281	389
	27.80%	72.20%	100.00%

図表8 講座ジャンル×世代

	教養	語学	体験	合計
30代以下	15	36	9	60
	25.00%	60.00%	15.00%	100.00%
40-50代	30	100	26	156
	19.20%	64.10%	16.70%	100.00%
60代以上	43	94	58	195
	22.10%	48.20%	29.70%	100.00%
合計	88	230	93	411
	21.40%	56.00%	22.60%	100.00%

図表3は回答者の職業についてみたものである。何らかの職業を持つ者（フルタイム＋パート）の人数・割合は196人(47.0%)と半数近くにもなっている。他方、職業をもたない者（無職＋学生）の人数・割合は190人(45.5%)となっている。

図表4は回答者の最終学歴についてみたものである。多い順に、大学卒204人(48.9%)、短大・高専卒が85人(20.4%)、高校卒が76人(18.2%)と続いている。

図表5は講座の難易度についてたずねた結果である。「ちょうどよい」が265人(63.5%)、「やや難解」88人(21.1%)と続いている。おおむね良好な受講状況であったことが推察される。

図表6は回答者の居住地についてたずねた結果である。富山市が259人(62.1%)と圧倒的に多く、高岡市の51人(12.2%)、射水市の31人(7.4%)が続いている。

図表 9 受講状況

	人数	%
はじめて受講	97	23.3
2-5回	205	49.2
6-10回	84	20.1
11回以上	30	7.2
無回答	1	0.2
合計	417	100

図表 9 は、回答者の受講回数についてたずねた結果である。最も多かったのが「2～5回」205 人（49.2%）であり、「はじめて受講」は 97 人（23.3%）にとどまった。今後の P R について課題が残ったと言える。

図表 10 希望する開講時間帯

	人数	%
平日午前	110	26.4
平日午後	165	39.6
平日夜間	150	36.0
土曜日	139	33.3
日曜日	49	11.8

図表 10 は、公開講座の開講時間帯についての希望をたずねた結果である（複数回答可）。最も多かったのが「平日午後」165 人（39.6%）、ついで「平日夜間」150 人（36.0%）、「土曜日」139 人（33.3%）、「平日午前」110 人（26.4%）、「日曜日」49 人（11.8%）が続いている。

これまで、公開講座の開講は「平日夜間」か「土曜日」のケースが多かった。本アンケートの結果から、「平日午後」の開講も積極的に進めていく必要性がありそうである。

図表 11 公開講座の効果

	人数	%
リフレッシュの機会になった	202	48.4
知り合いが増えた	193	46.3
一人より複数で学んだ方が効果的	176	42.2
知識を活用する機会が増えた	113	27.1
自分の成長が実感できた	94	22.5
普段の生活に役立つ	63	15.1
活動範囲が広がった	62	14.9
仕事に役立つ	8	1.9
その他	12	2.9

図表 11 は、公開講座を受講した結果抱いた感想について多い順に列挙したものである（複数回答可）。最も多かったのが「リフレッシュの機会になった」202 人（48.4%）であり、「知り合いが増えた」193 人（46.3%）「一人より複数で学んだ方が効果的」176 人（42.2%）が続いている。「その他」への自由記述として次のようなコメントがあった。

- ・仕事に役立つだけでなく、日常生活にも利用でき豊かになった
- ・物を造る楽しさを実感した
- ・たのしかったです
- ・楽しい!!
- ・少しでもわかると面白い
- ・覚えることは少しずつ忘れる
- ・体力を維持するのに役立つ
- ・歌う際の発声の注意事項が勉強になった
- ・学習のペースメーカーとして楽しく学ぶことができる
- ・勉強に対するモチベーションが上がった
- ・ドラマ・放送を聞いてても少しわかるようになった
- ・先生に教わるのができてよかった

図表 12 講座の内容はわかりやすかった

	人数	%
そう思う	356	85.4
どちらとも言えない	25	6.0
そう思わない	5	1.2
無回答	31	7.4
合計	417	100

図表 13 講座の内容は面白かった

	人数	%
そう思う	358	85.9
どちらとも言えない	23	5.5
そう思わない	1	0.2
無回答	35	8.4
合計	417	100

図表 14 講座の進め方に工夫があった

	人数	%
そう思う	344	82.5
どちらとも言えない	31	7.4
そう思わない	4	1.0
無回答	38	9.1
合計	417	100

図表 12 は、講座のわかりやすさについてたずねた結果である。「そう思う」と回答したのは 356 人（85.4%）だった。

図表 13 は講座の面白さについてたずねた結果である。「そう思う」と回答したのは 358 人（85.9%）だった。

図表 14 は講座の進め方に工夫があったかどうかをたずねた結果である。「そう思う」と回答したのは 344 人（82.5%）だった。

以上の 3 点から、公開講座はおおむね好評だったと考えても良いだろう。

図表 15 講座を知ったきっかけ

	人数	%
DM	185	44.4
Web サイト	130	31.2
知人を通じて	78	18.7
新聞記事	16	3.8
facebook	2	0.5
駅の広告	2	0.5
その他	29	7.0

図表 15 は公開講座を知ったきっかけについてたずねた結果である（複数回答可）。これをみると、DM（大学からのダイレクト・メール）が 185 人（44.4%）と最も多く、Web サイトが 130 人（31.2%）、知人を通じてが 78 人（18.7%）と続いている。現在、予算の事情からパンフレットの作成・配布をしておらず、かわりに講座一覧を記したチラシを郵送している状況にある（Web サイトによる検索方法も同封している）。そのせいか Web サイトで講座を知った人の割合が高くなっている。なお、「その他」の自由記述には次のようなコメントが記されていた。

- ・大学の先生を通じて
- ・県民カレッジ
- ・講師を通じて
- ・富山市民プラザのロシア語教室で
- ・前から通っていて
- ・先生の他講習から
- ・講座で
- ・以前から知っていた
- ・先生の紹介
- ・講座案内のチラシ
- ・役場の方を通して
- ・ことばの教室
- ・新聞折込チラシ
- ・図書館に掲示があった

*

以下では、公開講座で企画してほしい内容についてたずねた結果を列挙（抜粋）する。

【教養・趣味を重視した講座】

コンピューター、IT／漆のような伝統技術／ウッド（木工）／歴史、富山の歴史、郷土史、富山藩のこと／植物（雑草、樹木等）／万葉集／日本の古典何でも／PC 使用した年賀状作り／短歌、俳句／植物、園芸、美術、美術史／英語を通じた会話の機会／登山／ものの見方・考え方、哲学講座／合唱講座（女声、混声問わず）／音楽／韓国について学べる料理など／民俗／薬膳料理／韓国の生活習慣／ゴルフ中級／薬学／心理学／芸術文化に関する講座、絵画・音楽・写真の歴史／コミュニケーション・傾聴について／音楽療法・メンタルケア／日本の古典文学／ピラティス／オカリナ、フルート／手芸／健康に役立つもの／ワイン、チーズ／音楽鑑賞、美術鑑賞／音楽理論／防災知識、サバイバル／着付け／ホームページ作成／アロマオイル作り／一般教養／自然科学／再生可能エネルギー／スポーツなど体を子どもと動かす講座／子育てで子供をのばすようなもの／映画史、歴史（西洋史）／文学／庭の雪吊り講座／デジカメ／庭木の剪定／体を使う運動／朝鮮日報・コラム等の講読／楽しみを目標とし、知識も学べる講座／日本の戦後～現代／家庭菜園の肥料作り／書道／ダンス／食文化／iPhone の便利な使い方／医学

【資格取得を目指す講座】

TOEFL or 英検の 2 次試験会話対策／TOEIC テスト／英会話／野菜ソムリエ／簿記／世界遺産講座（検定のため）／手話／宅建、司法書士／TOPIK 又はハングル検定取得の講座／英検 1 級

【語学を充実させる講座】

ロシア語入門編／外国人による英語圏の文化のレクチャー／実用英会話／文法をまじえた英会話／仏・独・露等の初・中級／ネイティブが教えるフランス語講座（中級以上～）／仏語／

英語／中国語／初級スペイン語／ハングル・韓国語／イタリア語／英会話を 10～15 人程度で、できるだけランク別に／インドネシア、マレーシア語／富山のコトバ／デンマーク、フィンランド語／ビジネス英会話／朝鮮語講読／ドイツ文学の小説の原著を読む／語学も文化も学べる講座／外国語ボランティア養成講座／旅行に役立つ英会話講座

＊

以下は、自由記述欄に記入された内容（抜粋）である。

- ・少人数講座はとても充実していた。運営は大変かもしれないが、今後の発展につながると思う。受講者のレベルに応じ臨機応変に対応した講座でよかった。
- ・この試みは大変良いと思うので、しっかりと続けていただきたい。
- ・先生方に丁寧にご教示いただき、とても楽しいものづくりができた。アクセサリーの繊細な仕事が学べた。ありがとうございました。
- ・沈金の加飾をお願いします。
- ・講座の中身によって、初・中・上級等の段階があればよい。
- ・初めての漆作業だったので、覚えることや知りたいことがたくさんあり、作業内容や素材の特性等についての説明プリント等があるととても心強く思った。なぜこの作業が必要なのか？なぜこの素材（油等）を使うのか？代用できるものはあるのか？等、興味があってもしっかりわからないことも多くあった。
- ・あったかい雰囲気でおぼふことができよかった。先生方のおかげです。学生さんの補助もありがたかったです。
- ・ものづくりができる講座を増やしてほしい。後期にも参加したいが、あまり興味の持てる講座が少ないような気がするので増やしてほしい。
- ・先生方、学生の皆さんの御指導がわかりやすく楽しかった。細かく大変な技能が必要であったことがわかった。いろいろなものづくりに挑戦していきたい。
- ・今年は複数の講座を申し込みましたが、当講

座以外は抽選もれで受講できませんでした。人数枠をもう少し多く取ってほしい。又、申込み締切日から結果報告までの期間が長く、開催日1週間前でないと連絡がない。もっと早く連絡頂けるといい。他の予定との関係もあり。

・石川県から参加させていただいていますが、フランス語に関しては講座が充実していてよいと思います。平日は駐車場がないようなのでちょっと困っています。どこに駐車すればいいのか案内があればよいと思います。

・今回のようなネイティブなフランス語が聞けて楽しかったです。これからも、このような授業があればよいと思います。はやく上達したい気持ちになりました。ありがとうございました。

・話すことを中心とした講座だったのでとても良かった。今後も続けたい。

・もう少し回数を増やしてほしい。

・富山にいてこのような充実した授業を受けることができ満足しています。(仏語のネイティブの先生の授業)先生に感謝しこれからも続けていきたいです。

・再学習なのですが、楽しかったです。少し慣れたかな、と思うこともあり、それはそれで楽しいです。ありがとうございました。

・是非、先生の講義、年間通じて実施していただきたい。先生の雑学的な(?)豊富な知識をいただいて、とても楽しかったです。

・雨の日の夜、駐車場までが暗くて、足元が見えにくく危険です。簡単なものでいいので、照明があるとうれしいです。

・去年と同じく授業時間は1回2時間とし、前期、後期として申し込むのではなく、1年間30回として同じ生徒同志で授業を受けたい。

・教養・趣味の講座がもっと増えてほしいです。

教室のそばの駐車場をもっとあけてほしい。大学がここ(この地域)にある意義を地域に大いに役立ててください。開かれた大学・社会に貢献する大学を大いにアピールしてください。

・とても楽しく受講することができました。自分の体が変わっていくことを実感できてうれしかったです。続けていきたいと思います。

・楽しませていただいています。

・8回コースなのですが、とても身体に良い講座なので通年で回数を増やしてほしい。

・回数がもう少し多くあってもよいなと(10

回ほど) 思います。

・先生のネイティブな韓国語を聞けてとても良いと思います。後期も是非先生に教えて頂きたいと思っています。

・受講生それぞれの学習歴がちがうので講師はやりにくかったのではないかと思います。修了証書は必要ないとの意見が生徒の大多数です。

・レベル別に分かれたクラスがあればいいと思う。

・時間も回数も少なくなった理由が知りたい。語学は継続して長くやってこそ上達します。

・難しかったが頑張りました。

・少人数のクラスでとても良かったです。またチャンスがあれば参加してみたいです。

・興味のある講座が、昼間に仕事を持っていると選ぶことができずに残念に思うことがあります。

・毎回の宿題に追われましたが、とても楽しかったです。刺激を受けました。もっともっと成長したいと思うのでこれからも続けたいと思っています。

・難しかったのですが、毎回楽しく、大変勉強になりました。また先生の講座を受講したいです!

・先生はとても親しみやすく楽しく授業を受けることができました。他の受講生の方々からたくさん刺激を受け充実した時間を過ごせました。ありがとうございました。

・先生の教室は是非継続して下さい。

・Thank you Aska enjoyable time for me.

・とても活発でよいクラスでした。It was a very active and exciting course.

とても良い刺激になりました。語学を勉強することは、違った文化を知ることと改めて思いました。

・毎回色々なドイツの歌に接し、楽しく歌わせていただいております。今回はイタリアの曲も取り入れて頂き、楽しかったです。「講座の回数を増やしては」という案があったそうですが、増やしていただけるとうれしく思います。

・簡単な合唱(二重唱...)があるととても良い

・こんな講座ならどれだけでも受講したいと思います。(毎日の気ぜわしい生活の一服の清涼剤となりますよ!)

- ・中国語講座を継続させて欲しいです。
- ・楽しかった。語学以外の韓国文化なども知れてよかった。
- ・仕事の後のリフレッシュになっています。
- ・ずっと継続してほしい
- ・今年度から時間も回数も少なくなったので元に戻してほしい。
- ・今年は時間が少なくなったので多くしてほしい。
- ・成長できる機会を与えてくださりありがとうございます。これからもぜひ続けて下さい。
- ・駐車場がある程度確保され、安心して来ることができました。
- ・中級ステップアップに行きたいが、水曜日都合が悪いので、曜日がかわれば楽しかったです!!
- ・1 講座 120 分が 90 分になり残念です。ぜひ 120 分にして下さい。回数も減ってしまい、ぜひ元通り半期 15 回にもどして下さい。
- ・昼間の講座を増やしてほしい。15 回が 13 回になったが、元に戻してほしい。又、時間も 2 時間に戻してほしい。
- ・韓国の歴史など、知らない事を聞くことができ、あっという間に 90 分が過ぎていました。テーマに沿った話が毎回楽しかったです。
- ・ぜひ元通り 120 分授業にもどして下さい
- ・先生方がやさしく分かり易くとても良かったです。ありがとうございました。
- ・The class was very inspiring.
- ・ゲートを通る時に、入校許可証の提示を求められました。必要であるなら期間を明示した許可証を発行して頂ければと思います。
- ・駐車スペースを確保してほしい。
- ・とてもとても楽しかったです。いろんなデザイナー一人一人にクローズアップして、もっと深く勉強してみたいと思いました。
- ・週末の休日を利用して、学ぶ機会が持て良かったです。音楽療法についての講座があれば受講したいです。
- ・参考文献をいろいろ教えて欲しい。予習、復習になってとっても楽しかった。疑問がいろいろ有るが、それらがいつすっきりするのか、次回からがまたとても楽しみです。
- ・講師の説明はわかるのですが、自分の身体を動かそうとしても思うように動かないので残念

です。

- ・講師の指導がとてもいいだった。進め方も面白く興味がもてた。
- ・公開講座の内容を、もっと広く市民に周知した方がよい。
- ・メンバーがあまり変わらないので、もっと新しい人にたくさんピラティスの良さを知ってもらいたいです。宣伝をもっとしてください。
- ・週に一回ぐらいの講座のペースが参加しやすいです。
- ・土曜より平日夜間の方が通いやすいので来年ご検討ください。
- ・駐車場にもっと余裕が欲しい。
- ・午前の部はできれば、10:00～11:30 の時間帯にして頂けると午後からの用事に行きやすいです。
- ・中級フランス語というタイトルでしたが、内容は初級だと客観的に思います。テキストをもっと進めて頂きたいです。受講生の方はいろいろなレベルでフランス語の能力（話す、聞く、書く）をお持ちの方がいらっしゃると思うので、もっとそれを活かしたり、高めたりしてあげれるのではないかと思います。
- ・You Tube の紹介が多いのですが、フランスに関する映像をもっと紹介していただきたいです。
- ・講座が終了した後でも、講師に質問がある場合にメアドで意見交換できる道筋があればいいと思う。
- ・アットホームで毎回楽しく受講させていただきました。先生、大変お世話になりました。沢山勉強になる事がありました。これからそれを生かし、iPad を使いこなしたいと思います。大学院生のお兄さん、お姉さんありがとうございました。これからシニア、初心者を対象にした講座がもっとあれば嬉しいです。
- ・もう少し人数をふやしてほしいです
- ・一年間ありがとうございます。この講座、体力が続けば来年も参加したい。
- ・薬用植物について勉強させてもらいありがとうございました。
- ・定員をふやしてほしい（毎年申込み→発表までしんどいです）。
- ・21 人程度にまで増員してほしい。
- ・再受講したい。

- ・本講座の再受講が不可なのが残念です。
- ・いろいろと勉強になりました。内容が工夫されていてとても良かったです。
- ・放射能について、よく理解でき本当にありがとうございました。
- ・越人と富山の話聞ける講座があるとうれしい!!
- ・ときには講師の先生と一緒に食事をしながらお話を聞く機会があればと思う。おいしい料理と講義ありがとうございました。
- ・少人数で、細かいところがよくわかりました。講義だけではなく、実習が入ることで楽しく受講することができ、自分の知識、料理の幅が広がったように思います。ありがとうございました。
- ・毎回楽しく参加しています。今回も美味しい料理に満足しました。ありがとうございました。可能であれば駅前 CiC などでも講座があればもっと良いと思います。
- ・語学講座の回数、時間を長くしてほしい。
- ・次回、落雁。
- ・初めて参加させて頂いて楽しかったです。こしあだけの回があっても、私は嬉しいです。次回も参加したいです。七夕とか、二十四節季とかに合わせたお菓子、伝統のお菓子を教えて頂けると嬉しいです。
- ・和菓子をより深く学びたいと思っています。
- ・ムーブメント教室は大変勉強になり子育てに役立てました。親子でよい時間を過ごすこともできました。是非このような大学の研究を実生活に生かせるような講座を今後ともよろしくお願いします。
- ・先生のお話がとてもわかりやすくがんばれました。他のお母さんの話も聞くことができ、とても参考になりました。
- ・今後もこの講座のような内容のものがあれば受講したいです。
- ・授業料がもっと安いと良いと思います。
- ・先生の講座はいつも楽しく勉強になります。
- ・毎々、皆に言われている事ですが、語学その他専門的な事を学ぶ教室では、お知らせに載っている難易度に沿った授業がなされる事になっているはずですが、応募者のチェック体制がない為、同教室に多様な学力の人が混在していて、受講者、講師共に大変やりにくく、授業の質が

低下しています。善処をお願いしたいです。修了書、認定書は意味がないので廃止して下さい。時間と資源の無駄です。

- ・語学講座は、各レベルの中でも、読解・会話・文法語彙・試験対策など四技能ごとに分かれたクラスがあると良い。次学期の案内（いつ頃からどんな講座が開催されるのか etc.）を最終講座日にもらえるとたいへん助かります。今回初めての講座でしたが、クラスの皆さんから多くの刺激を受け、勉強に対して多くの刺激を受け、勉強に対してより一層の努力をしようという気持ちになりました。今後も機会があれば是非受講したいと思います。

- ・これからも受講を続けたい。難しいですが、うまくなりたい。

- ・講座の時間ですが、今、1時間半になっていますが、2時間にさせて頂いたら有難いです。

- ・休みの間、NHKラジオ講座を聞けなかった。その後の授業は大変だった。毎日、毎日、聞くことの大切さを感じました。来年度は、休みの時も充実させて、頑張りまーす。

- ・実際のニュースを聞きながら文法も説明を受けわかりやすかった。木曜以外にしていだけたらうれしい。時間は何時でもOKです。

- ・難しすぎるので、初級はNHKラジオまいにちハングル講座程度にしてほしい。今やってるのは、NHKラジオレベルアップハングルです。NHKまいにちハングルは多数の意見を聞いてねり上げられています。

- ・誰でもわかるような説明を載せてほしい。もう来期は決まっていると思うので、次からは初日はおためしで来て、その後決めるのはどうか。学力に合わないコースを受けたくない。人それぞれ目的も違う。楽しく長く続けることが出来る講座にしてください。

- ・韓国語を本格的に勉強し始めたばかりでチャレンジでしたが、なんとかついてきました。日本語訳がついていて本当に助かりました。これくらいの内容ならなんとかついていきたいと思っています。

- ・富山市の生涯学習からの助成が受けられるように希望します。

- ・もう少し講座の回数を増やして、一つの曲を時間を掛けてじっくり練習できるようにして頂けたらと思います。

・生活に“ハリ”がある楽しい時間です。今後も続けたいと思います。新しい知らない曲が歌えてうれしいです。

・とやま県民カレッジとの連携ということで、できるだけ自分の仕事外の範囲で続けようと思っています。夕方は18時だとつらいので、19時～、18:30～だと助かります。ご検討お願い致します。

・回数がもう少し多くても良いかなと思います。

・いつもなかなか男性と一緒に歌う機会がないので、この講座に男性の参加者が多くいらっしやるのが嬉しい。

・午前の時間帯を(10:00～11:30) 10:15～11:45にしてもらえると助かります。また、講座の回数が増えたのは良い面と不便な面があります。

・フランス語の入門講座(初心者向け)を土曜日(日曜日)に開催してほしい。先生のフランス語講座、とても楽しいです。

・スペイン語もはじめて欲しい。ハングル入門、初級を増やして、ハングル人を増やして欲しい。

・入門講座もあると勉強する人が増えて良いと思う。

・時間的にもう少し早く出来たらいいです

・英語の初級の授業があればいいと思う(日中に)。英語が少ないように思う。

・講義を聞くだけでなく、自分で何かを作り、調べる授業はとても面白かったし、仲間と大変さを分かち合うこともでき良かったです。ただ座って聞くだけの授業よりはやりがいがあると思う。

・語学の講座でしたが、ポエムブックを作成したり、一人ずつ作ったポエムを工夫を凝らして発表したりと、とても刺激の多いクラスで、楽しく学ぶことができました。来年もし同じクラスがあれば受講したいと思います。

・夜(平日)にもっと英語の講座があれば参加したい。

・この講座に通っていて、韓国の文化に触れたい気持ちが強くなり、遂に韓国に行ってきました！言語だけでなく文化も学んでいたことで、旅行中も楽しく韓国の方とふれあうことができました。

・ずっと継続して、中国語講座がなくなるらない

事を願います。

・午前の講座(中国語)あれば嬉しいです。

・先生の素晴らしい授業を受講させていただき、とても良かったです。これからも続けて行きたいと思います。よろしく願いいたします。

Ⅱ オープン・クラス（公開授業）アンケート

ここでは、2014 年度における富山大学オープン・クラス（公開授業）の受講生述べ 284 人に対するアンケート調査の結果を報告する（回答件数 220 件、回収率 77.5%）。

図表 16 回答者の性別

	人数	%
男性	150	68.2
女性	57	25.9
無回答	13	5.9
合計	220	100

図表 17 回答者の年齢

	人数	%
30 代	5	2.3
40 代	7	3.2
50 代	24	10.9
60 代	108	49.1
70 代以上	74	33.6
無回答	2	0.9
合計	220	100

図表 18 回答者の職業

	人数	%
フルタイム	52	23.6
パート	18	8.2
無職	136	61.8
その他	14	6.4
合計	220	100

図表 19 回答者の最終学歴

	人数	%
高校卒	24	11.0
専門学校卒	7	3.2
短大・高専卒	11	5.0
大学卒	155	70.5
大学院卒	20	9.1
無回答	3	1.4
合計	220	100

図表 20 回答者の居住地

	人数	%
富山市	131	59.5
高岡市	31	14.1
射水市	11	5.0
砺波市	8	3.6
氷見市	7	3.2
立山町	6	2.7
上市町	5	2.3
滑川市	4	1.8
黒部市	4	1.8
魚津市	3	1.4
小矢部市	2	0.9
南砺市	1	0.5
入善町	1	0.5
富山県外	4	1.8
無回答	2	0.9
合計	220	100

図表 21 オープン・クラスの受講状況

	人数	%
初めて受講	41	18.6
2-5 回	80	36.4
6-10 回	37	16.8
11 回以上	60	27.3
無回答	2	0.9
合計	220	100

図表 22 オープン・クラスの難易度

	人数	%
易しかった	13	5.9
やや易しかった	16	7.3
ちょうどよい	140	63.6
やや難しかった	42	19.1
難しかった	8	3.6
無回答	1	0.5
合計	220	100

図表 23 性別×年齢

	30代以下	40-50代	60代以上	合計
男性	1	16	132	149
	0.70%	10.70%	88.60%	100.00%
	25.00%	53.30%	77.20%	72.70%
女性	3	14	39	56
	5.40%	25.00%	69.60%	100.00%
	75.00%	46.70%	22.80%	27.30%
合計	4	30	171	205
	2.00%	14.60%	83.40%	100.00%
	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

図表 16 は、回答者の性別をみたものである。その結果をみると、男性が 150 人（68.2%）、女性が 57 人（25.9%）となっており、男性の割合が多い。

図表 17 は、回答者の年齢についてみたものである。30 代以下が 5 人（2.3%）、40～50 代が 31 人（14.1%）、60 代が 108 人（49.1%）、70 代以上が 74 人（33.6%）となっている。回答者のシニア層の占める割合が高くなっており、60 代以上が 182 人（82.7%）を占めている。

図表 23 は、回答者の性別と年齢をクロスした表である。「シニアの男性」層がきわめて高い比率となっている。

図表 18 は回答者の職業についてみたものである。多い順に無職 136 人（61.8%）、フルタイム 52 人（23.6%）、パート 18 人（8.2%）、となっている。何らかの職業をお持ちの方が 70 人（31.8%）を占めている。

図表 19 は回答者の最終学歴についてみたものである。多い順に大学・大学院卒が 175 人

（79.6%）、高校卒が 24 人（11.0%）、短大・高専・専門学校卒が 18 人（3.7%）となっている。きわめて高学歴傾向にあることが読み取れる。

図表 20 は回答者の居住地についてみたものである。富山市 131 人（59.5%）、高岡市 31 人（14.1%）、射水市 11 人（5.0%）となっている。

図表 21 はオープン・クラス受講回数についてたずねた結果である。多かった回答は、「2～5 回」80 人（36.4%）、「11 回以上」60 人（27.3%）である。「はじめて受講」は 41 人（18.6%）にとどまっており、公開講座の場合と同様、PR の充実が求められる。

図表 22 はオープン・クラスの難易度についてたずねた結果である。「ちょうどよい」が 140 人（63.6%）となっており、良好な受講状況だったとみられる。なお、「やや難しかった」という回答は 42 人（19.1%）となっている。

図表 24 受講による効果

	人数	%
リフレッシュの機会になった	124	56.4
一人より複数で学んだ方が効果的	96	43.6
自分の成長が実感出来た	76	34.5
知識を活用する機会が増えた	75	34.1
普段の生活に役立つ	45	20.5
知り合いが増えた	43	19.5
活動範囲が広がった	32	14.5
仕事に役立つ	24	10.9
その他	33	15

図表 24 はオープン・クラスを受講したことによって生まれた効果をたずねた結果である（複数回答可）。「リフレッシュの機会になった」124 人（56.4%）、「一人より複数で学んだ方が効果的」96 人（43.6%）、「自分の成長が実感出来た」76 人（34.5%）、「知識を活用する機会が増えた」75 人（34.1%）と続いている。

「その他」の自由記述欄には以下のようなコメントがあった。

- ・新聞の読み方・見方が変わった。
- ・生徒達の活性度がなく沈んでいる。質問の時間を取るべきだ。

- ・知識が深まった。
- ・木工具の扱い方、正に我流で適当であったが理論的、科学的な説明と実践により、その機能がよくわかり、目からウロコであった。
- ・日常的なことの経済学的裏付け。
- ・新知識を得た。
- ・ロシアに対する知識向上に役立っている。
- ・最新の知識を得て、満足。
- ・新しい知識を吸収できた。
- ・カレントな事項で面白かった。
- ・経済の数値化を学んだ。
- ・英文法の基礎を教えてもらって、良い機会になった。
- ・教官と知り合うことができた。
- ・趣味の知識を深めることができた。
- ・深く学ぶことが出来る。
- ・質の高い講義をきくことで、レベルの限度を定めずに学ぶことが出来て、ありがたい機会だと思っています。
- ・責任のある立場の人の話が聞けて良かった。
- ・資格の取得。
- ・学ぶ意欲をサポートしてもらえる。
- ・より向上心が持てた。
- ・今時の大学生の授業態度を知ることができた。
- ・知識が深まった。
- ・パソコンのソフトを駆使した学習に感銘し、より細かく学ぶことができて良かった。学ぶ方向性が見えて良かった。
- ・新知識を得た。
- ・新知識の獲得。
- ・ドイツ語の理解が深まった。
- ・少し難しいからこそ意欲が沸き、頑張れた。
- ・自分の知識増強と文章講読、理解力の向上。
- ・復習ができた。
- ・趣味に役立つ。
- ・大勢の学生の前で発言することができました。時事問題に取り組むことができました（以前はあまり関心がありませんでした）。
- ・専門分野でのものの考え方に接することができた。
- ・知識が増えた。原著にふれることができた。
- ・新しい知識をとり入れられた。
- ・教養の補充、学び方の方法。

図表 25 講義の内容はわかりやすかった

	人数	%
そう思う	190	86.4
どちらとも言えない	20	9.1
そう思わない	1	0.5
無回答	9	4.1
合計	220	100

図表 26 講義の内容は面白かった

	人数	%
そう思う	181	82.3
どちらとも言えない	28	12.7
そう思わない	2	0.9
無回答	9	4.1
合計	220	100

図表 27 講義の進め方に工夫があった

	人数	%
そう思う	170	77.3
どちらとも言えない	37	16.8
そう思わない	4	1.8
無回答	9	4.1
合計	220	100

図表 25 は、講義のわかりやすさについてたずねた結果である。「そう思う」と回答したのは 190 人（86.4%）であった。

図表 26 は講義の内容の面白さについてたずねた結果である。「そう思う」と回答したのは 181 人（82.3%）であった。

図表 27 は講義の進め方に工夫があったかどうかをたずねた結果である。「そう思う」と回答したのは 170 人（77.3%）であった。

図表 28 OCを知ったきっかけ

	人数	%
DM	144	65.5
Web サイト	50	22.7
知人を通じて	42	19.1
その他	29	13.2
新聞記事	5	2.3
facebook	0	0

図表 28 はオープン・クラスの存在を知ったきっかけについてたずねた結果である。多い順に DM 144 人 (65.5%)、Web サイト 50 人 (22.7%)、知人を通じて 42 人 (19.1%) となっている。

「その他」の自由記述として以下のようなコメントがあった。

- ・妻から
- ・施設に置いてあるパンフレット
- ・学ぶ機会を探して
- ・メール
- ・継続しています
- ・銀行の行内資料より
- ・チラシ
- ・富大 OC パンプ CIC ビルにて
- ・チラシ (県立図書館)
- ・広報とやま
- ・市役所の生涯学習課の窓口

以下は、自由記述の内容である。

- ・キャンパス構造が初めは理解しにくいです。なにかツールがあれば、助かります。
- ・大変お世話になりました。難しい内容もございましたが、とても意義ある内容でした。不思議なもので、大学時代には、到底思いもつかない、そして、その時代では興味も持てないようなこと等、この歳になって、初めて“学ぶ”ことの大切さを思いました。おそらく、いまのお若い方でもいつかそういった思いをすることもあろうと存じます。“今”の大切さを知る時は、過ぎ去ってから…かもしれません。遅ればせながら、そして、お恥ずかしい姿をお見せしながら年よりが頑張っております。そういう機会を

与えて頂けたことに心より感謝いたします。ありがとうございました。

・今回は大変良かったです。障害学などの講座を開いてほしいと思います。

・日本書紀・古事記などの講座があったらと思う。

・他にも学びたい講座 (授業) がオープン・クラスになっていないのが残念です。オープン・クラスのことをより多くの人達に知ってもらえたらと思います。ありがとうございました。

・オープン・クラス (公開授業) や公開講座を楽しみにしており、その都度事前にご案内いただければ助かります。

・今年度のオープン・クラスの数以前より少なく感じたのでもし可能でしたら、語学 (中国語・韓国語) で以前あったクラスの復活をお願いします。

・留学を志す学生の多さに驚くとともに、富山大学生の力強さを感じました。Toeic ToeFL 関連を含め、一般教養関係の英語科目のオープン・クラス化を希望します。段々、受講対象・範囲が狭められて来ています。

・斯種の講義が「特殊」のタイトルを取る、すなわち「通常」の授業の一つとして認知される日が富山大学にやってくることを期待しています。ほぼ 100% 英語の授業は富山外国語専門学校専攻科の 1 年間を 5 年前に経験して以来久しぶりででした。その事からも富山大学経済学部がここまで来たかと感無量でした。このような授業が今後もオープン・クラスの対象に加えていただくことを切望します。

・「富大生と一緒に学べます」のキャッチフレーズ (募集要項、表紙) が泣きます。というのも、オープン・クラスの生徒は他の人の発表の注釈を開くのみで自分の担当箇所・発表箇所がありません。全回予習していましたが自分の解釈の正否を、他の生徒の発表と先生の講義で確認するのみで何かもの足りないがありました。

・日常的に生活の中で感じる地方財政について理論的なバックグラウンドから十分説明を受けたことにより、より深く考えることができるようになった。斯種の講座のオープン・クラス化 (恒常化) を望みます。

・高校時代に世界史の一部として学んだ西洋史、今回の授業を受けつつ改めて現行の世界史

教科書を開いて、その奥深さについて改めて感じました。英語でやることの意義と合わせて、学問探究の奥深さを感じました。

- ・3人のリレー方式でそれぞれのスタイルを見ることができた。パワーポイントを使う先生の中には字や絵が小さすぎて見えないケースがあった。ただし板書は3人ともていねいでわかりやすかった。地球学の違う分野を広く紹介していくいい入門コースだと思う。

- ・オープン・クラスで参加したが、出席などを取ることもなく、自身が参加したという証拠があると良かった。

- ・学生さんと共に学べて若返った気分になりました。大学2年生さんの学習状況が分かり楽しかったです。自分はフランス語の学習歴が長い(20年位?)ですが、先生の授業は文法のポイントを良くおさえて教えて下さるので、とてもためになりました。機会があればぜひまた受講させていただきたいです。

- ・MBA 講座を受講しましたが、経営系の授業が多いので、今度は経済・金融論を聞きたいと思います。

- ・前期は中世の文書で、後期が近世の文書の予定です。できれば、前後期を通して、一年間近世の方がいいと思います。近世(江戸時代)の古文書の方が面白そうです。

- ・大学構内の学生の自転車のマナーに気をつけてもらいたいと思います。例えば、車道に二列で走行するなど。ボランティアなど何かお返しできれば良いのですが。

- ・今回は民法を中心とした入門法学であったが、他に労働法を中心とした入門法学もあった方がよいのではないかと思う。学生は社会的経験と思考作用が未熟な故に法律的ものの考え方が浅い。即ち法律はその点からして、大人の日常生活に関連することが多いとされる。その点今回の授業は例題を通し、民法の要点をすくって学生に法律になじんだところに有意義さがあると考えられる。換言すれば教養科目と専門科目の間に位置する基礎的な専門科目があった方がいいのではないかと思う。

- ・講義をうけるだけで、普段の学習が不十分だったので、自分自身の中で理解が深まらず、反省。後期、もし受講できたら、がんばろうと思います。

- ・毎回、楽しく(むずかしかったですが)受講しました。

- ・大学講師にもいろんな人が居るようですが、成績重視、就活のための勉強という面が強く、人間性や楽しさが感じられなかった。大学の講義を初めて受けたのですが、授業の進み方の速さにおどろきました。

- ・実習系の講座についても一部公開にして頂けると良いと思いました。

- ・退職し、これからは自分の学びたいことのみに取り組めるよい機会でした。若い人たちの中で、ちょっとウキウキしながら、たいへん楽しく貴重な時間を過ごすことができ、感謝です。

- ・最初教室の場所が分かりづらかった。休講とかの案内がもっと分かりやすい工夫があると良い。オープン・クラス用の部屋があったので、便利で使いやすかった。

- ・毎年お世話になっております。誠にありがとうございます。次年度もよろしくお願い致します。なお、質問ができれば、大変ありがたいと思っております。メールでの応答が可能ならばよろしいのですが、如何でしょうか? 希望します。講義は一方通行になりがちです。

- ・分野ごとに背景知識が十分でないと、英文が理解できないことが多かった。

- ・経済の基本が十分わかっていないので、その部分の理解が出来ないで終わったので未消化な気がします。

- ・教科書の内容、演習問題の選定が良かった。

- ・私は国際協力の活動に関する NPO に関係していますが、オープン・クラスのような開かれた教育を通じて、一般社会人と大学が協力・連携できたら、国益の増進につながると思う。

- ・本講座のオープン・クラス受講者が少ない(小生のみ?) しっかり PR して参加者が多くなるように工夫されたい。大学の地域への貢献に配慮されているが、さらに充実してもらいたい。

- ・今後も様々な授業を受けられる機会があれば嬉しいです。ありがとうございました。

- ・教養に越中万葉の講座がありこれまで3年間受講してきたが、今期から越中万葉の講座がオープン・クラスからなくなっている。復活すれば受講したいと思っているので、復活願います。

- ・同講座での学生の真剣な姿に喜びを感じた。

これからの子供達の育成に頑張ってもらいたい！

・大変エネルギッシュな講義であり、90分が短く感じられた。政治の基本的な内容もあり、もっと多くの学生に受講して欲しいと強く感じました。先生には、今後も富山で頑張ってもらいたい！（学生の反応は弱い!!）

・人格主義生命倫理と個人主義生命倫理の違いを学びました。尊厳死、終末期医療についても考えさせられる講義ではあった。教授の活躍を期待します。

・講座の範囲を幾分広げて頂きたい。3～4年固定されている様に感じます。明治以降の近代文学を取り入れて下さい。

・運良くこのような機会に恵まれて、大変感謝しています。今後もずっと続けていただきたいです。

・経済学部にて近代経済学、特に国際経済関係論、東南アジア経済学、国際貿易論、国際金融論等の講座が是非必要だと思います。国際政治、政治経済関係論等も必要です。出来れば、英語での講座が欲しいです。

・講座内容はおおむね良いと思います。毎回講読した作品の感想文は英文で書いた方がよいと思う。4～5名でのディスカッションも英語での機会にしたらどうでしょうか。

・講義やレポート、ディスカッションはすべて英語で実施してもいいのではないのでしょうか。

・先生の講座は大変有意義でした。有難うございました。

・一時間30分の講義時間があまりにも短い。学生さんにはもっと多くの本を読んでもらいたい。先生から本を50～100冊程指示し、どんどんレポートを出してもらい、半年に一人ずつ発表してもらったら良いと思います。

・先生の講座は、富山市民大学でも受講しています。とても楽しく、有意義です。有難うございました。

・お世話になり、ありがとうございました。先生、そして学生さん達が困っている時に気軽に声をかけて下さり、楽しく通えたことに感謝しております。育った環境が恵まれていたのだと感じます。授業も飽きないように工夫され、学生の意見を尊重しておられるのには、感心しました。これからも又、勉強したいと思っています。ありがとうございました。気持ちを相手に

伝える難しさ、いかにうまくコミュニケーションをとれるのか、学びたいと思います。（心理学は何度か学びましたが…）

・教授は分かりやすく、おもしろく、楽しく学ばせていただき、本当にありがとうございました。安い授業料で立派な先生に教えていただき、感謝しています。私の人生のライフスタイルとして、続けていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

・各分野で実際に活動し、責任ある立場で物事を考えておられる方の話を、直接に聞く機会を得ることができ、大変有意義であった。

・映像を活用したわかりやすい講座であった。テーマがはっきりとしており、研究目標が定まった。中世の中のキーワードを自分なりに、知識づけしながら講座を受講できました。ありがとうございました。

・直回路まではよくわかりましたが、交流回路では大変難しくなりました。電検3種に関する内容のみ学習しました。

・素人でもわかるように講義するのがプロの役目です。今回の2人の講師はよく考え、工夫されていました。

・学ぶ意欲を増長させて貰っています。ある程度の負荷（宿題、レポート提出等）があっても良いのではないかと。

・毎回ごとに講師（多彩な顔ぶれ）の方がいらっしゃるって、どのお話も興味深く聴かせていただきました。有難うございました。又、次の機会も参加できたらと考えております。（後期のカリキュラムが楽しみです。）

・主に新聞の見方（読み方など）について学び、時事問題のとらえ方や追求の仕方などが参考になりました。特に、新聞については、三大新聞、ローカル新聞などの同じ記事（たとえば集団的自衛権など）を読み比べてみることの大切さを知りました。また、資料（新聞記事～専門家のとらえ方など）のストックについて学び、情報収集のあり方について、今後考えていきたいと思っています。ありがとうございました。

・毎時間、映像に関する学習のテーマが明確に位置づけられており、映画の各分野の特徴をとらえるのに役立ったと思います。特に、映画に関する情報が多く、概論的な取扱いでしたが、かなりの基礎的教養が必要であると思いまし

た。毎時間、テーマに即したDVDによる鑑賞で楽しく学ぶことができました。初めて観る映画も多く、時間的制限もあり十分には理解できませんでした。映画への探究心は高まったと思います。毎時間、ウェブによる学習情報は、予習の資料として大いに役立ったと思います。ありがとうございました。

・毎時間、シラバスに即して、丁寧かつ適切な指導で、文化マネジメントの基礎を学ぶことができました。適宜、配布される資料（参考文献の紹介、資料の配布）は、どれも今後の学習に大いに役に立ちそうです。特に芸術の必要性について、指導のポイントがあり、社会とのかかわり方などについて考える契機にしていきたいと思います。ありがとうございました。

・興味深く楽しく学べました。

・このような機会を与えてくださりとても感謝しております。興味のあることに少しでもふれることができ、悪戦苦闘しながらも、授業が楽しかったです。また、受講料につきましても、良心的な設定で受講させていただきましたこと、対応して下さったスタッフの皆様方大変感じよく、ありがとうございます。同じ音楽の授業でも、違う先生、違う専門分野の先生の授業が公開授業として受けられると良いです。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

・日本近代史の講座を増やして欲しい。

・今年、3年目となりました。学習内容面で充実化を企てております。学生の皆さんと学習ができ、大変感謝しております。

・対象科目が増えればよいと思います。図書館を利用することができ、専門書を利用することができました。感謝申し上げます。

・いつも大変すばらしい講義を少人数で聞いており、大変にもったいないと感じております。新聞広告、チラシが有効と考えます。今春の公開講座のチラシは有難かったです。あれに、オープン・クラスについて併せて簡単に記入されればと思います。私自身、初めて受講するまで、このような講座があることを全く知りませんでした。

・ほとんど、受講させてもらいました、後期も受講予定しております。町内の公民館再生について考えておりますので、この受講の単位がいただけるか、又立上げについてのご指導等…後

期も勉強致しに行きます。

・ほとんど毎回受講させてもらいました、後期も受講予定しております。公民館の再生について考えておりますが、この時美術の単位がいただけるか、又、公民館にて私が美術史について、プログラム作成に助力できるかを知りたい。

・講座は楽しくて、ためにもなったけれど、起承転結というなら「起」のみなので、もったいない感じがする。

・最近、毎年受講させていただき、ありがとうございます。内容が豊富かつ講師の方々が充実しており、今後も受講したいと思っています。

・非常に理解しやすい講座内容でした。板書に加えて、逐次口頭で補足される説明が大変参考になりました。この講座は学部4年生向けのものであり、平易で分かりやすいものであったのですが、自分の求めているものには、さらに次のステップがあると感じました。そこで、要望なのですが、オープン・クラスを修士課程に拡大していただけたらとてもありがたく存じます。なにとぞよろしくお願いいたします。

・「演習」にふさわしい一体感のある授業でした。質問の時間、機会も配慮していただき、理解を深めることができ良かったと思っています。発表者への質問、討論が少なかったのは残念でした。

・かつて経験したことがない、授業の進め方に感服しました。素晴らしい充実した中身の濃い内容に大満足です。先生の「現代社会論」は正に、白熱教室でした。後期も火曜日本曜日以外であれば、受講したいです。質問について、丁寧に答えていただき、なお、コメントも適切であり、私は大変勉強になりました。先生にお礼の言葉もございません。

・工夫された講義の進め方であり非常に知的に刺激を受けた。学生のレベルを常に配慮して進めていた。板書が整理されわかりやすかった。

・未知の分野の学問であったが、内容の面白さにひきこまれていった。・原核生物の学習を通じ、生物に対する視点がかわった。・日常生活での微生物の働きがわかりはじめ衛生面、薬、食物に知識が応用できる。

Ⅲ オープン・クラス教員 アンケート

ここでは、オープン・クラスの受講生を受け入れた担当教員に対するアンケート結果(抜粋)を示す。

【1】担当教員向け Q&A について

- ・補講の連絡についての項目が、参考になりました。
- ・いろいろな状況を想定してQ & Aが作られているので参考になります。
- ・以前から気になっていたことが書いてあったのでよかったと思います。
- ・受け入れ手順など、参考になった。
- ・参考になりました。
- ・あれば助かると思います
- ・一年目の教員には何かと便利でした。今後も拡充されるとよいと思います。
- ・気になることが網羅されていてよい。
- ・参考になる部分もありました。
- ・勘違いかもしれませんが、受講生の情報がこちらにありません。最初の講義でサインをするだけの気がします。受講生の情報はヘルンシステムで見れるようにして欲しいです。
- ・よくできていると思います。
- ・参考になりました。
- ・授業以外の時間に頻繁に研究室に押しかける、などの迷惑行為に遭遇した場合にどうしたらよいのかわからず、一人で悩んでしまいました。もしもQ&Aの中にそのような場合の対処についての記載があれば、もう少し早くご相談することができたかもしれません。
- ・よくまとまっていると思います。
- ・とくにありませんが、オープン・クラスとはそうしたもののなのか、と理解が深まり、配布していただいて良かったと思います。
- ・よくまとまっており、特に意見等ございません。
- ・今回は特に必要としなかったが、分かり易くてよい。

【2】オープン・クラスの授業形態について

- ・熱心な方に受講していただきありがたく存じます。今後も積極的に行っていただきたい。
- ・特に問題ないと感じます。ただ、今回は履修生が多く、教室内で参加者の方をケアする余裕はありませんでした。
- ・対象はあくまで学生（社会人含む）を原則とすべきであろうと存じます。
- ・原則としては、推進することが大学の社会的責任だと思えます。
- ・一般市民向けに説明を丁寧にして、分かり易くする努力をしました。ただ、授業の進行が例年より少し遅くなってしまいました。
- ・毎年回答していることですが、学生にとっても刺激になり、学習の進展にとってもよい形態だと思います。
- ・教員の話を一方向的に聞くだけの形態の授業と異なり、私の授業の場合は、オープン・クラス生も普通の学生（大半は1年生）に混じって、小グループ（＝チーム）に入り、授業中のグループディスカッションや全体での討議、チームとしての授業外学習に加わる形式のため、異なる年齢層や社会経験を持つオープン・クラス生は一般学生に大きな刺激を与える貴重な存在である。結果的に月曜2限に2名のオープン・クラス生が参加し、別々のチームに所属して、予想通り、クラス全体に大きな刺激を与えてくれた。また、オープン・クラス生にとっても若い学生との活発な意見交流は、いかにも大学で学んでいる実感を増し、貴重な機会となったようである。2名のうちの1名は、この授業をM・サンドルの「白熱教室」以上だと絶賛し、受講できたことを大いに喜んでいて。今後も、私の授業は受講希望学生を約半分に絞る抽選を実施することが多いと思われるが、可能な範囲でオープン・クラス生を受け入れたいと考えている。
- ・学生にとってクラスの中に社会人がいることはよい刺激なのだと思います。特に、私の受講生の場合、座席の最前列で熱心に受講していましたので、周囲の学生によい見本となったようです。
- ・現役学生にとっても良い影響があると思います。教員にも良い緊張感が生まれます。
- ・本学学生が多様性に慣れるためにも良い制度

であると思います。講義科目では積極的に開放してもいいと思います。

- ・対話型を取り入れた授業をとっていますので、社会人から学生はよい刺激をうけているようです。

- ・一般論としては良いかと思います。ただし、受講生の意識は低いです。今回の受講生は、プロジェクターのスライドの前に座り、頻繁に睡眠されていました。学生が見ています。はっきり言って、こういった受講生は迷惑です。人生の先輩として模範を示すべき人間が、授業中に学生たちの前で堂々と寝る神経には、私には理解できないものを感じます。今後も、オープン・クラスでこういった受講生ができれば、オープン・クラスの開講は難しくならざるをえません。

- ・特に学生と一般市民の区別は感じませんでした。アクティブラーニング的にすると違いが出てくるかもしれません。

- ・学生にとっても、熱心な一般市民の勉学態度がプラスになっていると思う。

- ・特にありませんが、学生のみに対して伝えたいこと&教えたいこと、学科の連絡事項などなど、授業にはある程度関係はしているけど、一般市民には関係ないことを授業でお話しする時間があるので、そのような時は、少しやりづらいというか、申し訳ないという気持ちがあります。

- ・学生にとっても良い刺激になると思います。

- ・とてもいいことだと思います。国立大学として、富山県民の生涯教育に貢献していくべきだと思いますし、学生にとってもいい刺激になると思います。

- ・いろいろな方と学生と一緒に学ぶことは、学生の社会勉強になり良いことだと思います。ただ、あまりにもご自分の意見に固執し学生に価値観を押しつけるような場合には少々問題かと思いました。

- ・本学学生にとって、一般の市民がおられることは、適切に緊張感を維持するきっかけとなるようで、良いと思います。

- ・多様な人々が共に学ぶという点でよいと考えます。理想は、学生と一般市民との間で、思考の活性化と意見のやり取りができるようになるところですが、それができるためにも、欠かせ

ない条件だと考えます。

- ・熱心に受講される方が多く、学生にも良い刺激が与えられる点は、いいと思う。

- ・もっとたくさんの一般の方々に受講していただければと思います。

- ・年度によって受講生によって、その評価は分かれるように思いました。今年度は残念ながら途中から出席されなくなりました。社会人受講生が講義に求める内容と、こちらが学生向けに必要と思って講義する内容との間に食い違いがあったのかもしれませんが。残念です。

- ・毎回書くことですが、約40年前に留学したフランスの大学では、当時で既に当たり前のことになっており、違和感はありません。(むしろ、フランスではじめて教室を見回した時の方がびっくりしましたが。) 学生に対して、刺激になることもあり、長くオープン・クラスを続けてほしいと思います。

- ・社会人の方ということで、それほど抵抗感はありません。

- ・現状のままでよいと思います。

- ・地域に住んでいらっしゃる方の参加を得ることで、内容に対する刺激になります。過去の受講生を、ここ数年ゲストティーチャーとしてお呼びすることもあり、もっと多くの方に参加していただけるとよいのにとっているぐらいです。

- ・形態については、特に問題はないと思います。

- ・一般論としては、双方にとってよい形態だと思いますが、「ヌシ」のような存在になっている方は、悪影響を与えています。今年の私のところではありませんでした。

- ・講義にアクティブラーニングを導入する際、どう対応すればよいのか？グループディスカッションならば、その場で行うので講義内で対応できるが、グループ毎に課題を与えて調べてる場合は、どう対応すればよいのか？

- ・問題は感じません。もっとも熱心な受講生でした。

- ・討議型授業のため、学生とは違う属性、年代の市民の参加は学生にとって大きな刺激になり、有意義です。また、参加される市民にとっても現代学生たちの意見交流は有益かと思われます。さらに、学生・市民参画型大学教育改革(UD)を進める本学にとって、市民との具体的接

点になる機会としてとても有用です。

・ 今度の授業は少人数でしたので、社会人のいろいろな経験を聞くこともできたし、また、彼らの真面目さも在学生にはよい刺激になったと思われる。

・ 受講者は、社会経験が非常に豊富であり、国際事情、経営に対する関心が高いので、学生との実力差があるので、講義の水準を合わせるのが難しい。また、学生の受講態度とは大きな差があり、本学学生の評価が下がるのが心配である。

・ 学生にはよい刺激になると思います。一般市民の方がどう思っているかをうかがいたいです。

・ 一長一短はありますが、若干名でしたら問題ないかと思います。ただし、学生向けのアナウンスや学生向けに伝えたい時に、一般の方のご理解が必要かと思います。

・ 講義形式の授業であれば、何も問題はないと思います。

・ 3名受講しましたが、1名が途中で受講しなくなったことが残念です。他の2名については、学生よりも熱心に受講しており、学生にとっても少なからず刺激になったと考えています。なお、私の講義では毎回課題を宿題に出していますが、OC 受講者の人たちのほうが課題の正答率が高い傾向にありました。

・ 自分がお客様で学生ではないと考えていたようだ。当てても、宿題も十分にやってこない。カルチャーセンターではない。学生と同じ教室で受講するなら学生と同じことをしてもらう必要がある。そういう広報をしてほしい。

・ 良い、悪いという意味での意見は特にありません。今回受講された市民の方は大変熱心で、全く問題ありませんでした。一方、学生のなかには意欲がみられない者もあり、そうしたギャップは感じられました。

・ オープン・クラスの受講生はしっかりとした意思を持って受講されており態度が非常に良く、学生に良い影響を与えていると考えられる。反面、オープン・クラスの受講生からは学生の講義に取り組む姿勢がどう見られているか心配である。

・ 例年のことですが、学生にとっては、異なった環境や動機で勉強をしてきた市民と交わるこ

とで、学習の刺激になると考えています。これからも、この形は続けて行きたいと思います。

・ 受講生には意識の高い方もおられ、学問への取り組み方の点で、現役の学生に良い刺激をあたえることができると思われる。反面、学生よりも扱うものについて知識レベルが高かったり、探求心が旺盛だったりして、演習形式の授業だと受講生主体で授業が進むこともある。受講生は慣れているため積極的に話をするが、学生は受け身的でおとなしい。長所短所両方あるのだが、どちらにとっても有意義な授業にしていければと思う。

・ 健康がテーマだったので、生活習慣病が現実の問題となっている世代の受講生がいることで内容を実感しやすくなった。デメリットは特になし。

・ 今回の受講生1名には、授業の初回に、受講の条件は他の学生と全く同じ（課題提出等）であることを了解して頂いた。また、授業には真面目に出席してくれた。受講生に対しては特別な配慮はせず、通常の授業形態でオープン・クラスが実施されることが大事だと感じた。

・ 本授業を重ねて何年も受講している受講者もいますが、毎年、教材等を変えることを原則としていますので、問題はありません。

・ 勘違いかもしれませんが、受講生の情報がこちらにありません。最初の講義でサインをするだけのような気がします。受講生の情報はヘルンシステムで見れるようにして欲しいです。

・ 2名の参加者がいました。両人とも熱心に受講しており、好感がもてました。250名以上のクラスだったので、疎外感を持つことが危惧される。

【3】オープン・クラス全般について

・ ご本人の良識等に任せるよりは仕方がないのですが、特定の方が、繰り返し参加するのは、授業にも悪影響を及ぼすこともなり、よくないと思います。

・ 授業改善で刺激になったかと思います。オープン・クラスを受け入れることは地域貢献としても必要だと思います。

・ オープン・クラスの授業内容について、市民に伝えるチャンネルや方法を多様化していただ

ければ、望ましいと思います。

・シラバスには特殊な授業形態であることを断っているが、初回のオリエンテーションで戸惑われ、結局、受講を断念された方が別に1名おられた。今後、私以外でもいわゆるアクティブラーニング系の授業も増えると思われるので、まず、大学の授業が今、転機を迎えつつあることを軽く案内してもらうとともに、授業科目名だけで判断せず、シラバスで事前に内容を確認することを御指導いただければ幸いである。また、受講を決めた以上は、一般学生にとって自分の存在は有益だという自信を持ち、自分の多彩な経験や世代差による感性の違いを最大限に活かして、自然体で授業に臨み、積極的に発言などをするよう助言して頂けるとありがたい。(指導、助言は文書でも十分である。)

・高齢化が進む中、生涯学習のニーズはますます増加すると思われますので富山大としてもそれに応える施策が必要と考えます。

・オープン・クラスを大学の社会貢献の一環としてオープン・クラスを位置づける。具体的には、各学部でオープン・クラス開講数の目標値を定め、より活発に授業を社会に公開するようにすることで、大学の資源を地域社会に還元しているエビデンスの一つとする。オープン・クラスに関する受講生からの意見は、担当者だけでなく、全学的に公表してはどうでしょうか。

・受講生の意識について、事前の教育、ないし周知をしっかりと頂きたいです。

・授業期間の途中で受講者にニーズと合致しない様子を示されたり、学生の興味を引くような話題を導入したときに受講者からポジティブではない反応があったりして、どう対応すべきか苦慮した。授業実施上、特別な工夫の必要はないとQ&Aにありましたが、やはり何らかの工夫が必要に感じました。

・MBAのことだけだが、もう少し周知する方法を考える必要があると思っている。

・一般市民の方に講義を解放することはとても良い試みであると思います。ただ、今回の当方の講義は、違う曜日に開講されている別の講義と連動しており、本講義のみで内容の理解と習得は難しいケースにあたります。オープン・クラス受講者用の情報の中に、そういった説明を加筆出来ればよいと思います。

・特にありません。現状でよいのではないかと考えます。

・以前はもう一クラスあったはずですが、この数年開講されていないようです。授業の多角化をすすめる上でも、再開してほしい点です。

・Q&Aでは受講動機については、受講生に尋ねるようにとあるが、担当者としては予め知らせておいてくれた方が、1回目で話す内容を考えるにあたって、それを考慮できるので助かる。

・授業開始時に、受講動機(目的、背景、特に学びたいことなど)を提出していただけると、お互いにとって実のある学習機会にできるように思います。直接お尋ねするのは、特に受講者数の多い授業の場合は他の学生とも様々なやりとりがあって時間的に難しい場合があります。

・時間に余裕がある方で、このような機会を生かしたいと考えておられる方は多いと思います。もっと、外部に広報をして、たくさんの方々をお受けすることができるとよいと思います。

・修了証書を希望すれば発行するとのことですが、今回担当した授業では、途中から全く出てこなくなった方がございました。修了証書を発行する場合は、出席日数程度は確認した方が、実質的なものになると思います。

・授業の前に、受講の動機が、把握できればよい、と思います。

・悪天候(台風など)の時、講義が行われるものかどうか、という基本的な情報が受講者に伝わっておらず、講義当日に学部教務課などに受講生が何度も問い合わせてきた。他大学では、朝7時に警報が出た場合休講となる、などのルールが明記されているところもあるが、本学ではその限りでなく、HPなどでしっかりと伝えるべきである(例えば、悪天候時も基本的には講義が行われる、など)。

・オープン・クラス受講生はヘルン・システムにログインできないことから、ヘルン・システムを利用したレジュメの配布等ができません。該当者のみの「特別扱い」(教員による手渡し等)が簡便な解決方法であり、実際にそういったしましたが、該当者によってはほかのみんなと違う扱いを受けることに抵抗を感じるかもしれません。臨時のIDの配布などがあってもよいかと思いました。

・1回目の受講生抽選に戸惑われ、受講を遠慮

された方もおられましたが、元々わずかな人数に枠を限定しているので、遠慮の必要がないことを予めお伝えしておいて下さると助かります。

・一般市民の方にも他の学生と同様に、授業中の実習などに取り組んでいただきたいのですが、一般市民の方が「自分は学生じゃないから」と取り組みを拒否されることがあり、他の学生への影響が懸念されます。また、授業内容が一般市民の方の期待したものと異なったり、学生の興味を引くための具体例などが一般市民の方にとっては興味がない場合があったりしたときの、一般市民の方のネガティブなリアクションが気になります。

・OC受講者の中には、残念なことです講義についてこれない方もいます。そのような方にどのように対応したらよいか今後の課題かと思っています。

・意見はありませんが、気をつけるようにしています。市民の方が受講される場合、少なくとも一度は声をかけ、どういった希望や目的を持って来られたのか、確かめるようにしています。満足していただくためです。

・受講生からの感想を貰えれば今後の参考にさせていただきますと思います。専門性が高いためオープン・クラスへの参加者は少ないと思われますが、今後も継続していくべきだと思います。

・難しいとは思いますが、午後になると駐車し難いなどの点をクリアして、気軽に受講できる環境が作れたらよいと思います。

【4】 本学の生涯学習支援事業全般について

・大学院博士課程の入学要件を緩和すべきだ。
・本学が学生参画型FDの進化形態として全国の大学に先駆けて展開している市民も参画する大学教育改革活動(=UD; University Development)には一人でも多くの市民に関わってもらいたいと考えている。日常的なUD Meeting、年1~2回の一大イベントであるUDトーク、学生が講師役を務めるUDアカデミックサロンにも参加を促して頂ければ幸いである。

・地域社会に貢献するために、オープン・クラ

スは、教員の手間があまりかからず貢献度も高いと思うので、積極的に行うべきだと思いますが、教員によって考え方が異なる所が難しいと思いました。

・大学院における生涯学習支援プログラムを考えてはどうでしょう。

・一般市民による一般市民のための教育講座のために、教室を提供すると言うことがあっても良いかもしれません。大学生も参加可能にして。あるいは、運営主体を一般市民にして、希望の教員複数に交渉するなどして講義スケジュールを立ててもらうのも有りかと思います。特に、定年退職された先生方(近隣在住)が活躍できる場を設けることができれば良いと思います。

・地域社会への貢献を促進することが大切です。地域の将来をいっしょに話し合い、取組むことなど、もっと突っ込んだ取組みをぜひ実施したいと思います。

・協力できることがあると思いますので、様々な形で情報提供を希望します。

・私が知らないだけかもしれませんが、学外への広報をもう少し活発にしてもよいのではないかと考えます。例えば、私の知る限りですが、「広報とやま」で大学からの案内を見たことがあまりありません。単に学内に掲示するのみならず、市役所や県庁のロビーにポスターを貼ったり、パンフレットを増やしておいたり、既にされているとは思いますが、拡充されてはどうかと考えます。

・サイエンスカフェのような1回または2~3回のみの講義はどうでしょうか？

・教養科目とはいえ、かなり高度な内容ですので、受講者にはその旨をお伝え頂いておいたほうが良いと思います。

・大学のそもそもの概念(ヨーロッパで大学が成立した事情を考えれば)からして、大学は開かれた場であるべきで、地域の知の発信地として、できることは何かを考え、学術講演会、展示(附属図書館の小泉八雲の展示のようなスペースではなく)会をオープンな形で開いていただければと思います。

・主たる対象者は誰であるかは、明確にしておく必要があると存じます。

・毎秋行っているUDトーク(大学教育改革に関する意見交流イベント)へも参加を促して頂

けると幸甚です。昨年12月開催分はオープン・クラス生からの口コミもあり、市民が3名参加され、参加した3名からは好評でした。

・このような取り組みは非常に良いことだと思うのですが、そのような取り組みに参加される一般市民の方に参加する上での留意点や大学側が期待することを、事前にもっと説明しても良いように思います。

・大学の生涯学習、自治体の生涯学習、様々な講演依頼など、民間の生涯学習も含めると、かなり飽和状態に感じます。教員は、それ以外に社会貢献として、高大連携、小中学校など様々な場に出ていて、かなりのオーバーワークです。教員間での負担割合も、非常に差があるのも問題かと思っています。もちろん大幅な赤字経営は理解できません。検討されていると思いますが、もう少し大学として、何をすべきか、何をやるべきか学内外で調整して頂けると助かります。

・大学が一般市民の期待に添うことは常に可能とは言いませんが、今回は成功したように思います。そうしたわけで、この種の事業には好意的で、今後も進めるべきであろうと考えます。

・オープン・クラスも含め生涯学習支援については、積極的に広報を行って下さい。

【5】高大連携（小杉高校校外学修）について

・高校生の場合、公開科目に多少の制約があるかもしれない。

・原則として、他のオープン・クラス参加者と同様として、「特別の配慮」をしないことが大切だ考えています。

・どんな形で「受入れる」のか分からないので、自分ならやる意味や効果を慎重に考えたい。

・オープン・クラス生と同様、異質な層が混じることはディスカッション中心の授業にとっては非常に有益である。この点は高校生についてもあてはまる。また、【4】で記したUDにおいても高校生は入学予備軍というだけではなく若い一般市民という性格も帯びていると考えられる。開講時限という点で、恐らく5限のものだけが対象であり、私の場合は5限には総合科目（新聞投稿に挑戦）しかなく、ルール上対象

外ではないかと思われるのが残念である。

・毎回、最前列の机に座り、真剣に聴講していました。高校からの聴講生であることを周囲に知られないように配慮しました。

・出前授業に出かけることなく大学をアピールできるいいチャンスだと思いますので、少しずつでも積極的に行うべきだと思います。

・他大学でも同様の取り組みをしていると聞いています。受験生確保という観点からでなく、一人の人間を育てるという観点からも、高大連携は必要だと思います。

・この授業は専門の知識を必要とするので、高校生を対象とすることはできない。

・たぶん、該当者はいなかったのではと思います。もし、いる場合にはその旨、事前に連絡いただけると良いと思います。

・趣旨や目的など、全体像を教職員に説明しなければなりません。その上で、現状のSSH、SPPなどと違った位置づけであり、協力すべきであると判断できる場合、できる範囲で協力すればよいと思います。富山の将来を担う人材を地元の大学がどのように育成するのか、県教育委員会とよく協議して、大学のミッションとして取組むことが重要であると思います。

・おつかれさまです。富山大学、富山県、富山市、他さまざまな機関で生涯学習があり、もう少し、同じようなものは集約して頂ければうれしく思います。かなりの負担増になっていますので。

・はじめて聞きましたが、無理があるのではと感じます。ただでさえ、高大連携で大学見学や模擬授業などで、かなり通常業務に支障を来しています。大学に見学に来られても、あまり、やる気を感じられませんか、もう少し、考えて頂ければ幸いです。最近、高大連携事業は、大学の先生に丸投げ状態で、根本から考えて直して頂きたいと思います。

・詳細な情報提供を希望します。

・富山県内の高校とは小杉高校だけではなく、積極的に連携を進めていただけたらと思います。実際に授業に参加することで、早い段階で富山大学への進学を決意してもらえそうですし、教員の側もそうなるように頑張っていくべきだと思います。優秀な高校生については、教員と共に専門的な研究を進めていくとい

うようなこともできるといいかと思います。

・今回は受けもちではないので特に意見・感想はありませんが、大学での高学年対象の講義は、低学年時に受けた講義のベースがあった上で内容を理解出来るものなので、高校生に対して開放するなら、低学年の講義がより良いと思います。

・私自身は、非常によいアイデアだと考えます。学部への偏りなく、広く受け入れることを期待します。その上で、可能であればもう1校2校、数を増やされてよいかもしれません。もちろん、正規の学生との兼ね合いもありますので、大幅に人数は増やせないと思いますが、複数の連携先との間で交流を持っておくことは、学問に触れる機会を増やし、また将来の入学志望者を増やすという点で、今後重要になってくると思います。また、これも可能であればの話ですが、定期的に大学教員が出かけて、模擬授業ではなく本物の出前授業を行ってもよいかもしれません。ご参考くだされば幸いです。

・理系の授業に限っていえば、高校の数学、理科の知識を前提にしているのので、高校生が受講することが有意義であるとは思いません。高校生でも分かるようにするためには、特別な準備が必要であり、それを大学の授業として行うことには抵抗を感じます。

・授業時間は90分or50分？高校生にとって一番つらいのは「90分」の授業時間かもしれません。

Ⅳ おわりに

<受講生の属性>

公開講座は40代以上の中・高年女性受講生の割合が高く（全体の58.9%）、オープン・クラスは60代以上のシニア男性受講生の割合が高い（全体の64.4%）。この傾向は例年と変わらない。また、公開講座の受講生のうち大卒以上の者は53.9%、オープン・クラス受講生の大卒以上の者は79.6%となっており、全般に高学歴の傾向がある点も同様である。とりわけオープン・クラスの場合においては、大学初学者というよりはほとんどが「学び直し」を進める人々の集まりであるという性格が強くあらわれている。

<受講生の講座満足度>

公開講座、オープン・クラス受講生は、講座・講義をどのように評価しているのか。このことを把握するために、今年度アンケート調査から「満足度」についての質問を加えることにした。すなわち、講座・講義の「わかりやすさ」、「内容の面白さ」、「進め方に工夫はあったか」の3点についてたずねた結果、8割程度が好評価を示す結果となった。「是非このような大学の研究を実生活に活かせるような講座を」（公開講座受講生）、「素人でもわかるように講義するのがプロの役目です。今回の2人の講師はよく考え、工夫されていました」（オープン・クラス受講生）。これは大学開放の円滑な運営がなされているものとして評価されるべき点であろう。「自分の学びたいことのみに取り組めるよい機会でした。若い人たちの中で、ちょっとウキウキしながら、たいへん楽しく貴重な時間を過ごすことができ、感謝です」（オープン・クラス受講生）。

<公開講座受講生のニーズ>

公開講座受講生向けのアンケートでは、今後開講してほしい公開講座を記す自由記述欄を設けている。そこに記された内容は、個人的な趣味や日常生活の知識技術、語学、健康・スポーツ・食文化、資格取得、あるいは「〇〇学」といった学術的ジャンルまで多様な要求があがっていた。「教養・趣味の講座がもっと増えてほしい

です」との声もある。自由記述欄には、とりわけパソコン・デジタル関連の実習や古典・歴史系が比較的多く記されていた。可能な限り、これからの公開講座の企画に反映していきたいものである。

公開講座の新規開拓に加え、受講時間・受講回数の延長をのぞむ声も絶えない。現在、「1回あたり90分・13回」を上限とする内規があるが、「120分・15回」にしてほしい、という要望がある。内規の改定が可能かどうか、吟味が必要である。

なお、公開講座の開講時間帯についての希望をたずねたところ、「平日午後」「平日夜間」「土曜日」「平日午前」「日曜日」の順に多いという結果がでた。これまで公開講座を開設する際、勤労者への配慮から「平日夜間」か「土曜日」に開講するケースが多かったが、「平日午後」のニーズが最も高いことが明らかになった。今後この時間帯に講座を開講できるかどうか、検討する必要がある。

＜オープン・クラス受講生のニーズ＞

オープン・クラスは、原則的に、オープン・クラス受講生向けに特段の配慮をしなくてもよいことになっている。よって、これまで受講生の側の要望を事前に聴取する取り組みも存在しなかった。だが、オープン・クラスを担当する教員からしばしば出される要望として、受講動機を事前に知りたい、ということがある。「受講生の情報がこちらにありません。最初の講義でサインをするだけのようになります」「受講動機については、受講生に尋ねるようにとあるが、担当者としては予め知らせておいてくれた方が、1回目で話す内容を考えるにあたって、それを考慮できるので助かる」「受講動機(目的、背景、特に学びたいことなど)を提出していただけたらと、お互いにとって実のある学習機会にできるように思います」(担当教員)。受講希望調書に動機・目的などを記入する欄を設けてそれを把握し、事前に担当教員に知らせる措置を考える必要がある。

＜資格取得に向けて＞

受講生の中には、語学を中心に資格の取得支援を希望する方々がいる。「英検1・2級」

「TOEFL」「TOEIC」「TOPIK」「簿記」「宅建」「司法書士」などがあげられている。「TOEIC、TOEFL関連を含め、一般教養科目の英語科目のオープン・クラス化を希望します」。このような要望に対し、2015年度からは公開講座「英語TOEIC」を開講することになった。次年度は、この取り組みの成果・課題を把握し、可能な範囲で資格関連講座の拡大(レベル設定なども含め)を進める必要性もあるだろう。

＜学習の「足踏み」状況の克服に向けて＞

公開講座とオープン・クラスの受講生は、自らの学びの場を大学に求めた存在である。そこで肝心なことは、大学側が適切な受け入れ段階の講座・講義を開放しているか、そしてそのステップアップの機会をどれだけ提供できているか、ということにある。先にみたように、公開講座、オープン・クラスともおおむね好評である。だが、他方でその中には学習の「足踏み」とも言えるような状態があり、ステップアップ上の課題が残されている。

公開講座からみてみよう。例えば「英会話を10～15人程度で、できるだけランク別に」「講座の中身によって、初・中・上級等の段階があればよい」という声がある。これは、「同教室に多様な学力の人が混在していて、受講者、講師共に大変やりにくく、授業の質が低下しています」という意見と対応している。特に語学講座では、常にレベル設定の難しさが生じており、試聴を設けることを希望する受講生もいる。それは、「学力に合わないコースを受けたくない」ためだという。このような問題に対し、2015年度の語学系の講座では初級→中級→上級のランクを明確に設け、各人のレベルにあった講座を提供することにつとめるよう改革をおこなった。実際に、そのような段階的流れが形成されステップアップの問題を克服できているかどうか、今後も調べが必要だろう。

オープン・クラスにおいても似たような課題がある。例年指摘されていることであるが、「特定の方が、繰り返し[同じ授業に]参加するのは、授業にも悪影響を及ぼすことになり、よくないと思います」というように、同じ授業＝ステップにとどまり続けるケースがみられる。本学の公開授業は比較的大規模な開放がなされている

ものの、「次のステップ」が用意されていない、開講科目が縮小している、という意見もみられた。「起承転結というなら『起』のみなので、もったいない感じがする」「他にも学びたい講座（授業）がオープン・クラスになっていないのが残念です」「今年度のオープン・クラスの数が以前より少なく感じた」。オープン・クラス科目の拡大はいかにして可能なのか、一考する必要がある。

なお、これと関連して、大学院授業の開放のぞむ声を受講生・教員とも存在する点も重要である。ある受講生は、「この講座は学部4年生向けのものであり、平易でわかりやすいものであったのですが、自分の求めているものには、さらに次のステップがあると感じました。そこで、要望なのですが、オープン・クラスを修士課程に拡大していただけたらありがたく存じます」と述べている。これに加えて教員側からも、「大学院博士課程の入学要件を緩和すべきだ」「大学院における生涯学習支援プログラムを考えてはどうでしょう」との声があった。学部段階の開講科目拡大とあわせて、大学院授業の開放も検討が必要となっている。

<広く相互交流促進に向けて>

オープン・クラス担当教員から毎年のように出される感想として、「私の受講生の場合、座席の最前列で熱心に受講していましたので、周囲の学生によい見本となったようです」「学生よりも熱心に受講しており、学生にとっても少なからず刺激になったと考えています」などという声がある。中には、過去の受講生が「ゲストティーチャー」として参加する事例もみられた。他者の多様な学び方に触れることは生涯学習を発展的に実践する上で重要なことだといえるのかも知れない。

受講生の中には、講座への参加により「教官と知り合うことができた」ということを記した方がいた。その他、メール等を利用して「質問ができれば大変ありがたいと思っています」など、知的交流を求める声もある。何らかの形で、受講生どうし、あるいは教員も交えての意見交流の機会が望まれているように見える。そのことで、学習動機を高め、励みになることも多いと思われる。

また、「メンバーがあまり変わらない」「もっと広く市民に周知した方がよい」「もう少し人数を増やしてほしいです」という声もあった。幅広いPR活動によって、これらの声に応え、相互交流を実現していくことも大事な課題の一つだろう。現在、諸事情により公開講座のパンフレット作成を取りやめているが、紙媒体でのPRには一定の効果があると思われるので、再検討すべきところかも知れない。

*

大学での学びは、必ずしも平易なものばかりではない。うまくついていけないケース、途中で受講を中断するケースもある。ただ、学問の難しさはそれ自体が魅力であるという意見もある。

「疑問がいろいろ有るが、それらがいつすっきりするのか、次回からがまたとても楽しみです」「少し難しいからこそ意欲が沸き、頑張れた」「毎回、楽しく（むずかしかったですが）受講しました」。今後とも、大学の持つ本格的な知識・技術の開放を通じ、地域における生涯学習の拠点として発展していくことが求められている。